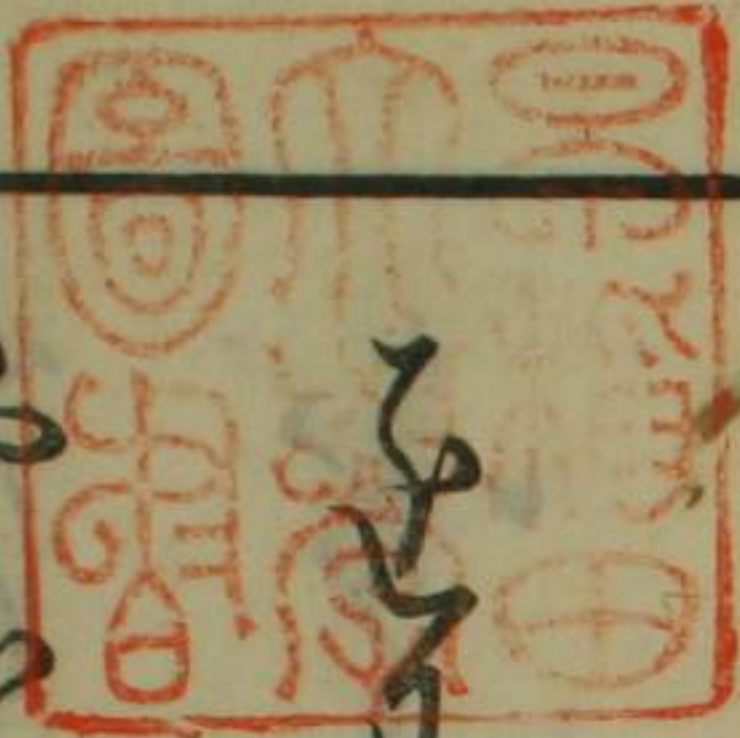
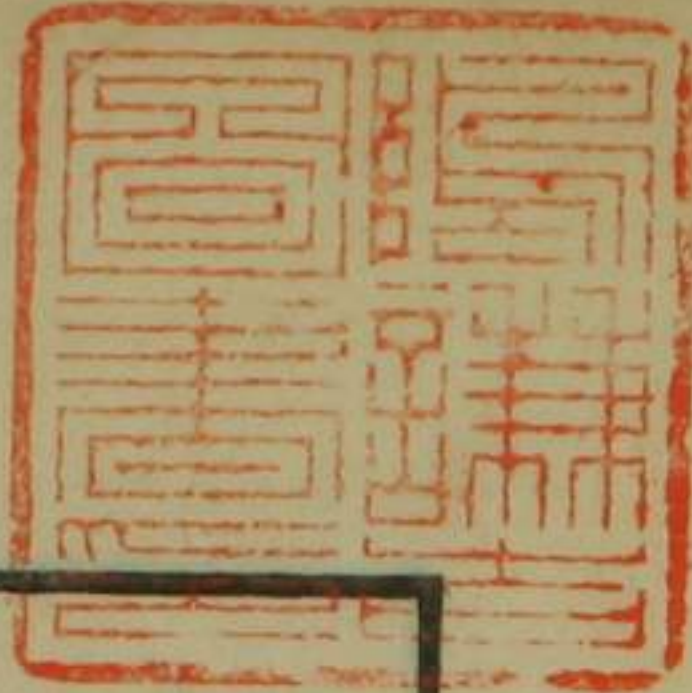


讚岐國名勝圖會 大内郡 一

JL 4
270
1



門 八四
號 270
卷 1



玉藻吉讚岐國者國柄如雖
見不飽之萬葉集卷之五
子今之世に於て
其を以て振るるる
う此國乃名所也此也

无礙菴

碧水藏書

真景松岡信正撰

讚岐國名勝圖會
前編五冊



演習館藏板

くまのしんをくわんてん
のりしんをくわんてん
のりしんをくわんてん
のりしんをくわんてん
のりしんをくわんてん

しんをくわんてん
のりしんをくわんてん
のりしんをくわんてん
のりしんをくわんてん
のりしんをくわんてん
嘉永六年の冬

正三位千種有功卿

山深と云くもの
ち功

しるふひら

しるふひら

筆の海流は

序二

讚岐名勝圖會後序



讚之高松多名勝憾無記載而傳之者夫高松之
為藩臨海倚山瀾濤壯潤峰巒繡錯焉遠之有
象頭山及松山白峰之名區迹之有栗屋嶋及齧
浦煮海之奇勝藩固多文人墨客詩書畫盛行焉
若夫名區奇勝皆其日夜所游涉看翫而其徒何
為無記載而傳之者耶意者文墨之徒類皆風雅絕
俗超然塵表如記載尋常之事似非其所急者也先

是握原景惇別字藍渠名族于高松少而好學
善詩書畫本是高松一流之人物中年發憤特踈文
墨之遊技專脩國史典故之學遂草
帝王編年之一國史百五十弓獻之于藩府藩主善
其記載之審詳又以其精于史學舉用補任國史
校讐館學士嗣子景紹別字藍水亦襲藍渠之任同為
校讐學士之列校史之餘暇自謀記載其國內之名勝
凡讚之諸山川讚之諸郡縣臨海之鉅倚山之奧其間可

游涉看玩之諸名勝又神廟寺觀之點綴于野于村混
襍于市于街者不知其有幾百幾千其大小顯晦一質之
於館中所藏之正史或野乘家說而載之載而傳之圖
之繪之勿論示文人墨客雖邨姬穉子令其讀而知之是誠
為便宜有用之書也壬子之夏將刻之于京師示予曰記載
名勝必巨父昔年已僅起筆而以編史為第一義而不息
此著繼筆父之所擱筆也請子為跋焉予以謂藍渠
終身所苦心之事編纂
朝廷之大典詳記國家之治

亂固為記載之大者藍水之所著視之大者則為其小者乃父
 完備其大者遺其小者以傳之于子大小之記載俱歸梶
 原氏之家不亦偉乎其父濫觴其子不洩其流而增
 之是為孝子之能事矧身仕其藩府有所苦心于封疆
 諸有之事跡可見忠于藩主之一端也豈唯與看玩名勝
 為文墨風雅之一助者可同日而語乎刺成一閱識此
 嘉永癸丑之梢冬 從四位下祝部希聲撰



讚岐國名勝圖會卷之一

一 夫我讚岐の國は東西南北の伊豫土佐より
 色一北も海小瀬一々封域のうち名區佳境の敷しき幸
 他の國々卓裁す此書專一國一後不便らん夏と欲す夏と
 りの多々眼目のねよふ深しき事同の事危と之やと一巻後たりし
 有となく悉く記載す
 一 神社の延喜式神名帳よ奉つてその歴物なるを重りもへんす御里不
 なる如の唐土神勸法の神社のつらきを悉く是をあらす寺院も
 神は是も不惟し古刹おびる流の墳寺の地のおまじは是を
 載すさきと神勸法の神のや縁の多く社司寺僧の死すところ
 怪法多記すふらふと且年月の鋸鋸するありあふく、知信
 開基乃年月のつらかりと記すの、神の事、神の事、神の事

三本松村 道祖神社 教蓮寺 正妙寺 王子社 安藝盛山宅跡 兜徳大明神 大水至神社 百藝姫陵 八幡宮 大師堂 圓光寺 堀原系辰墓
 埴子社 水門右雲 教清の密 八幡宮 全園倉浦跡 増峠の井 山王権現 百藝姫陵 神楽堂 水至十二系 糸野三新 弘海寺 稻森 六車宗且墓
 清水 崇國寺 寶光寺 卯宮社 虚堂藏院 日輪坊 荒井社 神楽堂 大水寺 神掛川 圓通菴 流岡 天満宮
 狛呂寺 御成明神 龍王権現 王子坊 辨才天社 虎丸城跡 經の丸 吉野明神 温室 柳谷 東山権現 足乃池

琴田八幡宮 長瀧寺 神通寺 醫王寺 婆の井 觀音堂 服屋義治墓
 松林寺 三寶寺 釋王寺 東光寺 懸橋明神 春日大明神 観音堂
 八幡宮 丹生山 顯住寺 鬼女明神 辨才天社 菅神社 大阪越
 八幡宮 子安八幡宮 三教明神 婆明神 西光寺 篠明神 阿比井大明神

神柄加笑許貴才

五藻吉讚岐國者
國柄加羅見不飽
神柄加幾許貴寸

讚岐國名勝圖會卷之一

國彌之事

古事記云於是伊弉那伊弉夜志愛袁登古表如言竟而御合
妹伊弉那美命言阿那夜志愛袁登古表如言竟而御合
生子淡道之穗之狹別島次生伊豫之二名島此島者身一而
有面四面有各名故伊豫國謂愛比賣讚岐國謂飯依比古粟
國謂大宜都比賣土佐國謂津依別下略

こめことり人名義の文

此國の名とこめことり人名義の文
古事記傳に竿調國と云ふ所の
南と北と傳と云ふ所を東と西と傳と云ふ所を
山者日經乃大御門尔春山跡之美佐備立有畝火乃此美豆
山者日經能大御門尔弥豆山跡山佐備伊座と見えざる當
國の南北傳と地形を云ふ所を狹緯と云ふ所を
服東西の傳と云ふ所を南北と云ふ所を
日本書紀曰成務天皇五年秋九月令諸國以國郡立造長縣
邑置稻置並賜楯矛以為表則隔山河而分國縣隨阡陌以定

古事記曰於是伊弉
 那岐命先言阿那
 夜志愛衣登賣衣
 妹伊那那美命言
 那近夜志愛衣登
 表如此言竟而御
 生子於道之德之
 別鳴次生伊豫之
 名嶋比嶋者身一
 有面四每面者名
 伊豫國謂此古
 岐國謂此古
 依國謂此古
 依國謂此古



女神男神
 天乃紅橋
 たせの圖



畫院生徒藤原良敬



一ノ初

邑里因以東西為日縱南北為日橫山陽曰影面山陰曰背面

是以百姓安居天下無事焉

郡分之事

日本書紀曰崇峻天皇二十一年秋七月壬辰朔遣近江臣滿於東

山道使觀蝦夷國境遣完人臣勇於東海道使觀東方廣海諸

國境遣阿倍臣於北陸道使觀越等諸國境

同書曰天武天皇白鳳十一年十二月甲寅朔丙寅遣諸王五

位云云判官錄史工匠者等巡行天下限於諸國之境坡

續日本紀曰元明天皇和銅六年五月甲子畿內七道諸國郡

鄉名著好字其郡內所生銀銅彩色草木禽獸魚虫等物具錄

色目及土地浚塔山川原野名号所山下略

風土記曰讚岐國屬南海道或作讚吉管十一郡東西三日行

山川海陸田疇均等五穀饒魚貝類多名人多出焉下畧

和名鈔曰讚岐國管十一大內知布寒川加佐無三木山田夜末

香川加阿野綾彌足判字多那珂奈多度三野美刈田葛

延喜式曰南海道讚岐國上管郡名鈔為中國畧凡讚岐國准

大國聽凡九戶例損下畧職原

讚岐國大炊下千四百石糯四十石中凡諸國春采運京者畧

讚岐國六月卅日以前送納訖下畧

年科租春采讚岐國二千斛

年科別貢雜物讚岐國紙麻百五十斤牧牛皮十張斐紙麻一

百斤

諸國貢獲番次讚岐國十三壺五口各大一斤八口各小一斤

交易雜物讚岐國白絹十疋鹿革廿張若凡五枚管圓座四十

枚搗子四合鹿子皮十五張金漆一斗五升罾大豆四十二石

隔三年進罾大豆五石大豆十八石

凡諸國輸調兩面十丁成足中讚岐國五丁成足

凡貢夏調絲者讚岐國中綠並絹

讚岐國行程上十二日下六日海路十二日調兩面五疋二

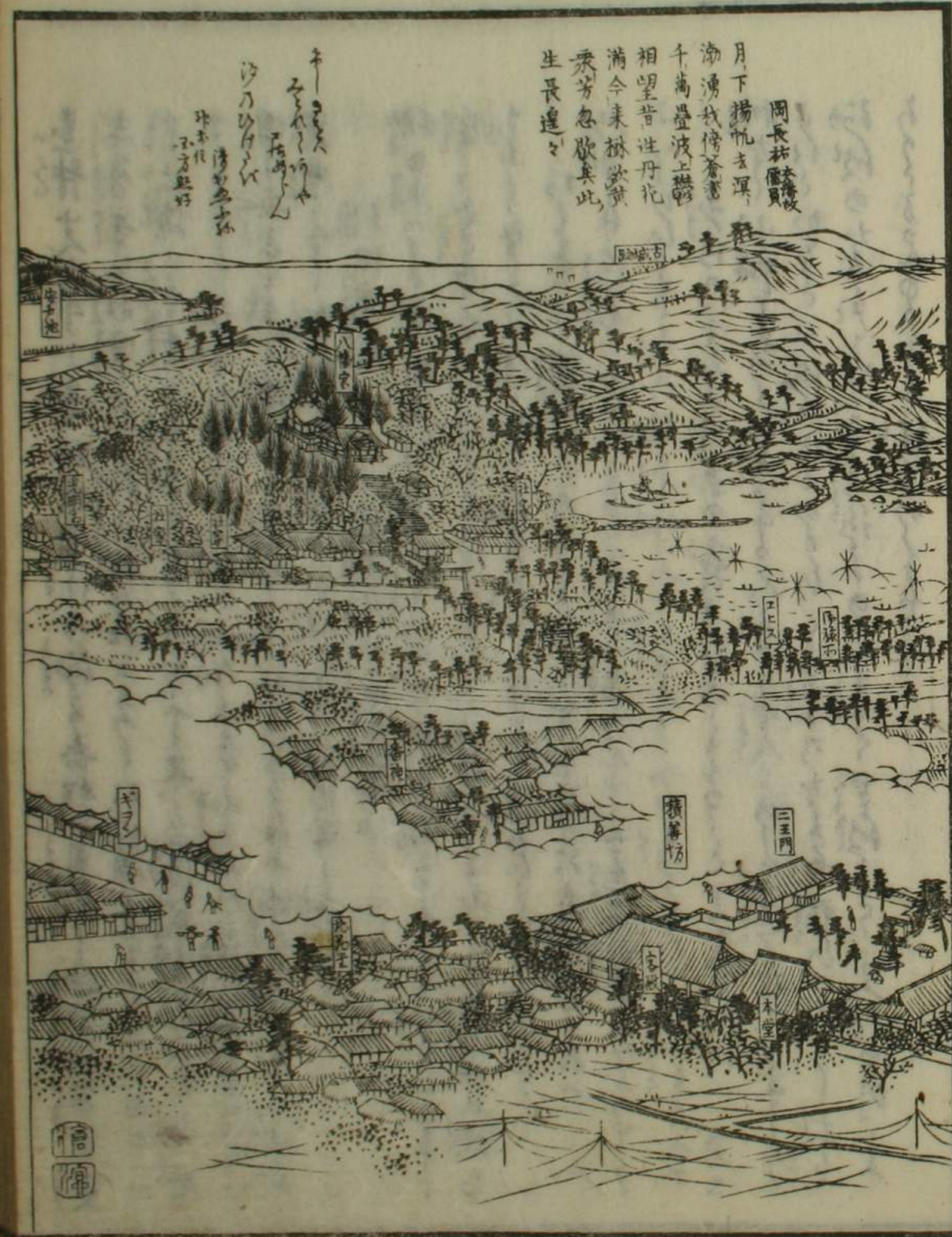
窠綾十二疋七窠綾小鷄鳴綾各八疋蕃薇綾四疋三窠綾五

疋白絹十疋緋帛縹帛各三十疋陶瓮十二口水瓮十二口瓮

八口壺十二合大甕六合有柄大甕十二口有柄中甕八十五

口有柄小甕三十口鉢六十口碗四十合麻笥盤五十口大盤

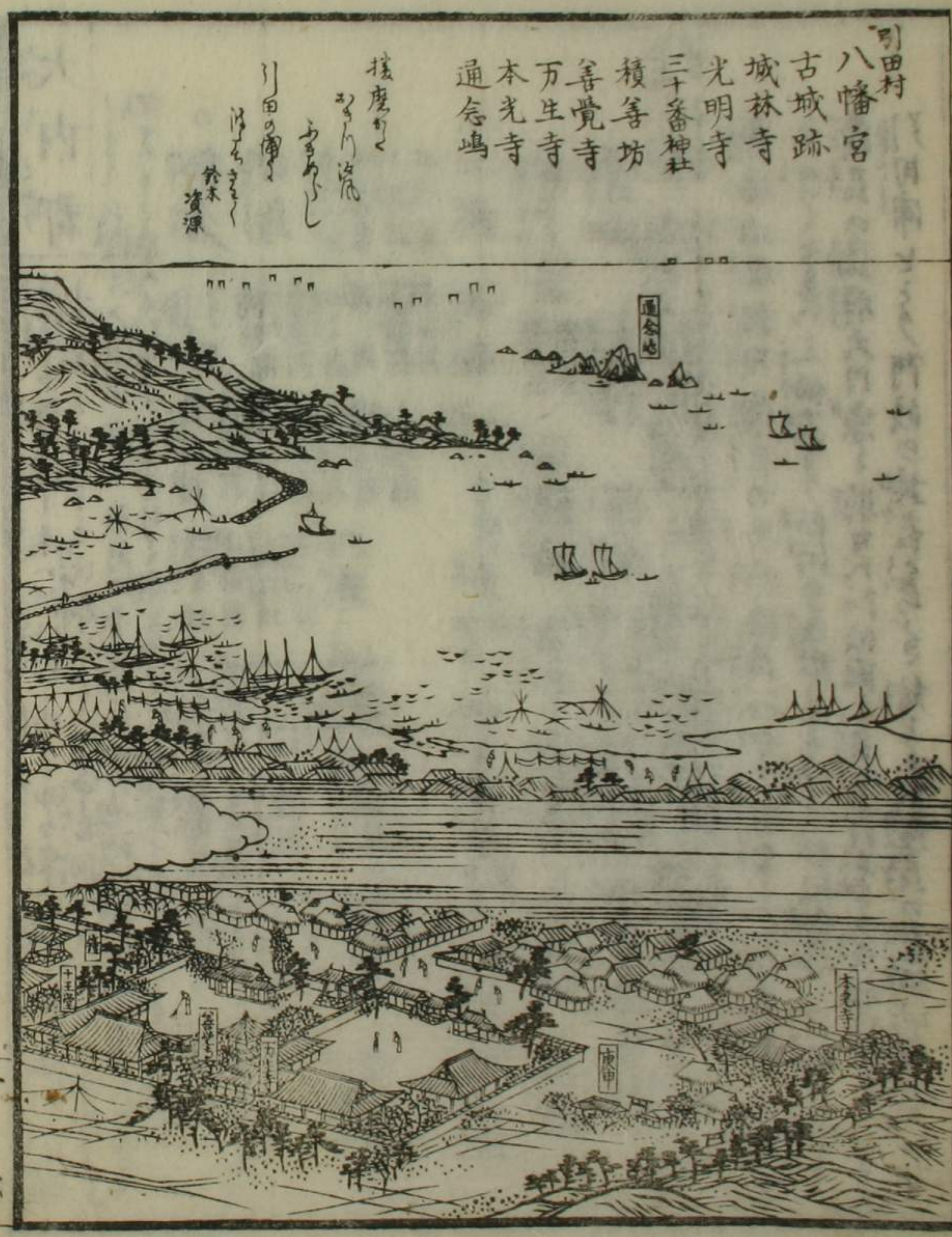
十二合大高盤十二口椀下盤四十口椀三百四十口壺杯一



千代田
 石ノ門
 沙乃山
 津島
 本町
 下町

岡長林
 月下揚帆去
 湧浪我傍
 千萬疊波上
 相望昔世
 滿今來樹
 乘芳忽歇
 生長遠

信
 傳



引田村
 八幡宮
 古城跡
 域林寺
 光明寺
 三番神社
 積善坊
 善覺寺
 万生寺
 本光寺
 通念嶋
 接度町
 引田の海
 津島
 本町
 下町

一ノ六

安戸池
安戸明神

池は淡乃山の底に
五石いふと見えし
昔よりけ池の入り
細き川に内ふま
いふたしりく山に
海入るるし形ん
そ色乃相ふいふの
りそ一ひみそと
古老とて

池の神
みぢの
あし北八
よふへ



本尊如意輪観音 仍基菩薩

馬宿

南寺の仍基大士の系刻からこの年や今の本寺の馬宿
宿 諸國ふるまふに多し人家の多し
仍元暦二年 仍基大士の御坐す所なり
休めり。是よりよき名なす。又此院に姓古四國 初設道とて。仍基大士
浦にあり。大坂を越げれば。那由多勢のとも。いづれも。自らを。かす。ま。ま。り
西のま。つ。り。ひ。あ。り。故。院。と。ら。な。か。た。て。り。ま。せ

海蔵院

本尊 薬師如来 仍基大士 地蔵菩薩 二所
法守社 山王持次
南寺の法守社 天保年中 多田清仲の寺に在りて。伽藍再興
し。け。相。高。と。改。め。ら。る。の。家。と。か。る。天。正。年。中。ら。か。り。か。り。の。ら。再。興。せり

鞍掛松

西光寺

源義経さまの御殿と
御殿をいひては。松とて
足洗池 道徳内なるにありて
本尊 弘法大師
一向宗 多野寺 門跡末寺

尚寺の永祿元年八月、忠信が三好義興を討つに討死した。その事から、
尚寺の通明道春と云ふ僧、一宮の御願として、脊戸場と云ふ元禄三年十月
廿二日、泉再興して今の寺号に改む。

黒羽城跡 黒羽村にあり。細川隆光が黒羽を治すに、
元年十月三日、安部元任と曰く、黒羽城跡に、
毘沙門塚 日所あり。黒羽村にあり。黒羽の戦い、
ちかごろの戦い、出づる所の地、
王子権現 黒田村にあり。社人三人。末社、牛頭天、
社人一人、社傍に林あり。

成松大明神 黒羽村にあり。社人五人。末社、
山王権現、天由宮。

尚社 尚社の年々、社神、
尚社、尚社の年々、社神、
尚社、尚社の年々、社神、

大明神と云ふこと、天正年中、
大明神と云ふこと、天正年中、
大明神と云ふこと、天正年中、

尚社、尚社の年々、社神、
尚社、尚社の年々、社神、
尚社、尚社の年々、社神、

尚社、尚社の年々、社神、
尚社、尚社の年々、社神、
尚社、尚社の年々、社神、

尚社、尚社の年々、社神、
尚社、尚社の年々、社神、
尚社、尚社の年々、社神、

尚社、尚社の年々、社神、
尚社、尚社の年々、社神、
尚社、尚社の年々、社神、

尚社、尚社の年々、社神、
尚社、尚社の年々、社神、
尚社、尚社の年々、社神、

即寺小幡例、
即寺小幡例、
即寺小幡例、
即寺小幡例、
即寺小幡例、

白鳥郷 社、
白鳥郷 社、
白鳥郷 社、
白鳥郷 社、
白鳥郷 社、

白鳥太神宮 白鳥村にあり。神、
白鳥太神宮 白鳥村にあり。神、
白鳥太神宮 白鳥村にあり。神、
白鳥太神宮 白鳥村にあり。神、
白鳥太神宮 白鳥村にあり。神、

祭神 日本武尊、
祭神 日本武尊、
祭神 日本武尊、
祭神 日本武尊、
祭神 日本武尊、

同 右倫武彦大伴武日、
同 右倫武彦大伴武日、
同 右倫武彦大伴武日、
同 右倫武彦大伴武日、
同 右倫武彦大伴武日、

神樂堂 神樂堂、
神樂堂 神樂堂、
神樂堂 神樂堂、
神樂堂 神樂堂、
神樂堂 神樂堂、

本朝神社考曰、讚岐國有白鳥明神、
本朝神社考曰、讚岐國有白鳥明神、
本朝神社考曰、讚岐國有白鳥明神、
本朝神社考曰、讚岐國有白鳥明神、
本朝神社考曰、讚岐國有白鳥明神、

公止于此國云、又曰、倭武尊靈化為白鶴、
公止于此國云、又曰、倭武尊靈化為白鶴、
公止于此國云、又曰、倭武尊靈化為白鶴、
公止于此國云、又曰、倭武尊靈化為白鶴、
公止于此國云、又曰、倭武尊靈化為白鶴、

尚社、尚社の年々、社神、
尚社、尚社の年々、社神、
尚社、尚社の年々、社神、
尚社、尚社の年々、社神、
尚社、尚社の年々、社神、

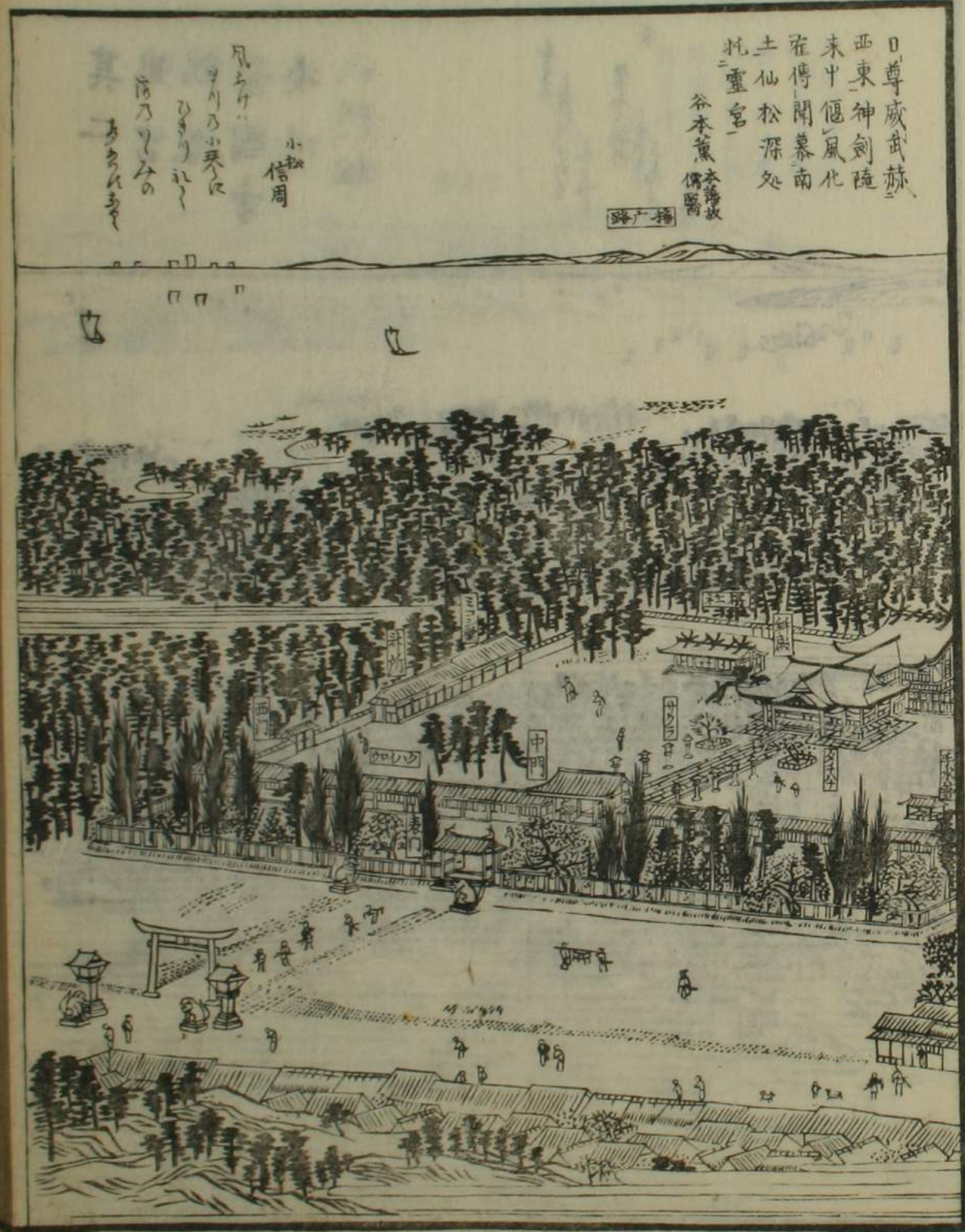
尚社、尚社の年々、社神、
尚社、尚社の年々、社神、
尚社、尚社の年々、社神、
尚社、尚社の年々、社神、
尚社、尚社の年々、社神、

尚社、尚社の年々、社神、
尚社、尚社の年々、社神、
尚社、尚社の年々、社神、
尚社、尚社の年々、社神、
尚社、尚社の年々、社神、

尚社、尚社の年々、社神、
尚社、尚社の年々、社神、
尚社、尚社の年々、社神、
尚社、尚社の年々、社神、
尚社、尚社の年々、社神、

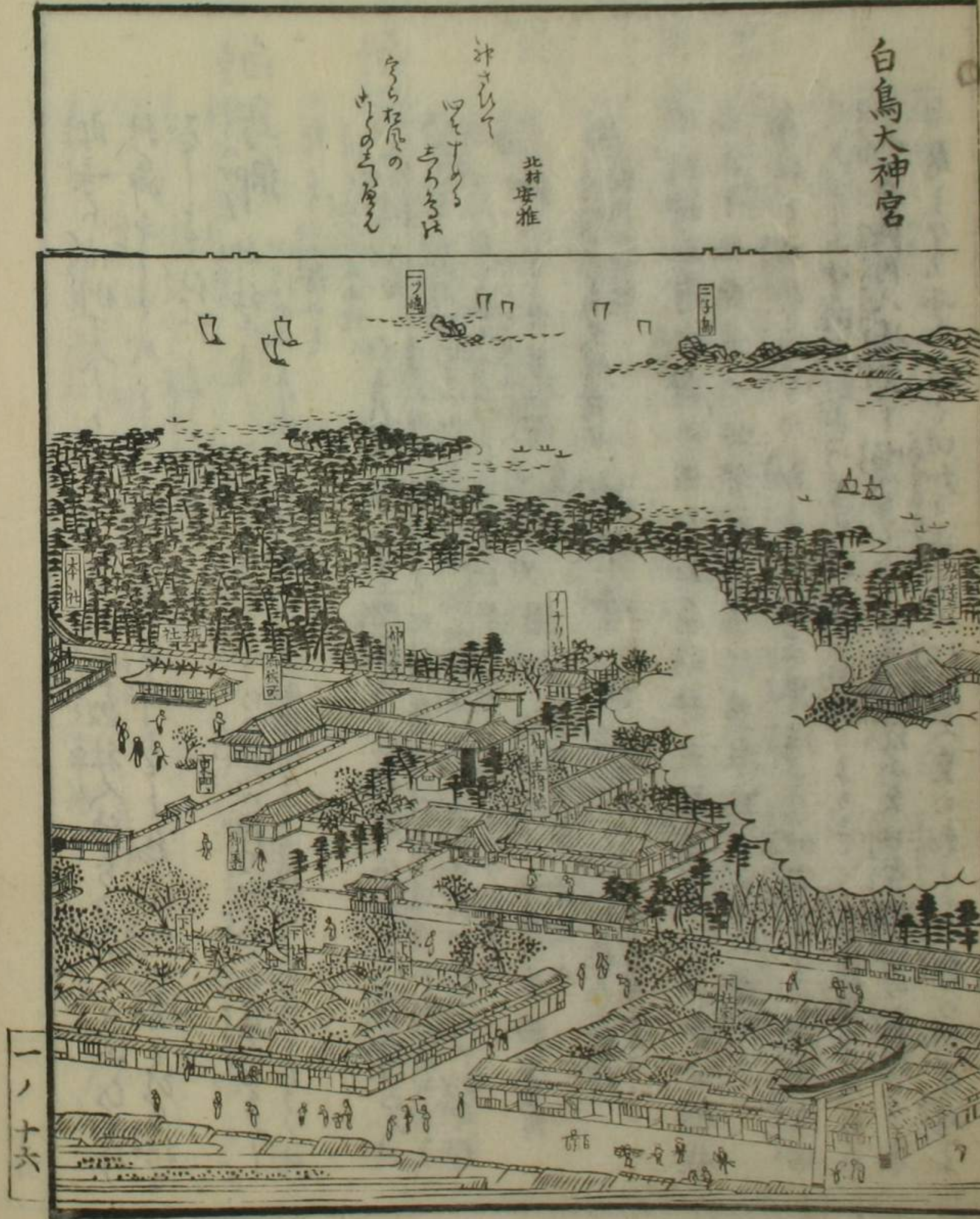
尚社、尚社の年々、社神、
尚社、尚社の年々、社神、
尚社、尚社の年々、社神、
尚社、尚社の年々、社神、
尚社、尚社の年々、社神、

尚社、尚社の年々、社神、
尚社、尚社の年々、社神、
尚社、尚社の年々、社神、
尚社、尚社の年々、社神、
尚社、尚社の年々、社神、



凡そけ
 小松
 信周
 乃乃小松
 ひまわり
 乃乃みの
 乃乃みの

日尊威武赫
 西東神劍隨
 未中偃風化
 雀傳聞慕南
 土仙松深処
 托靈宮
 谷本兼
 本海故
 備醫



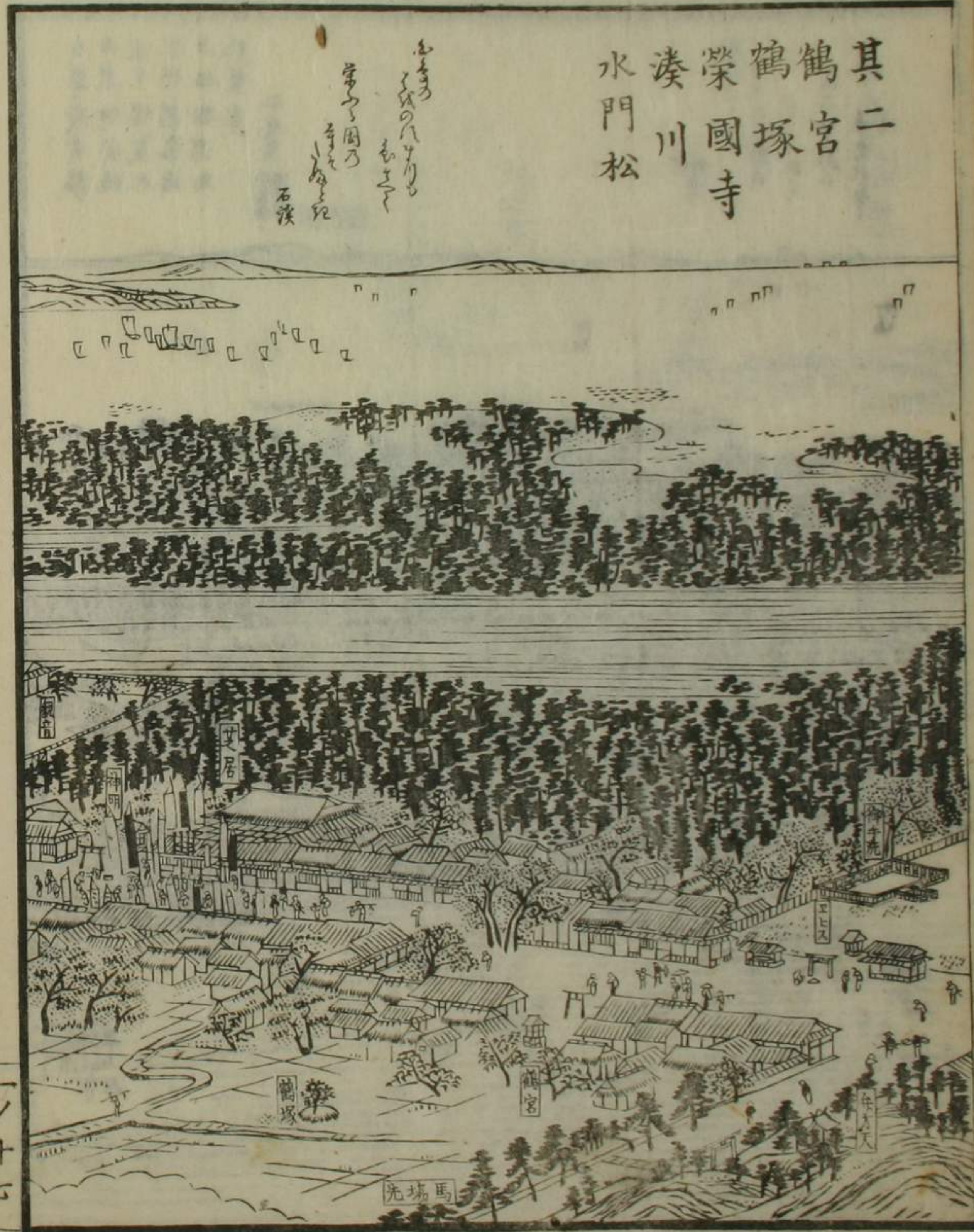
北村安雅
 乃乃小松
 ひまわり
 乃乃みの
 乃乃みの

白鳥大神宮



人家落分雜
漁高滿浦潮
聲日夜憶東
北微茫山鉄
處觀鯨掉尾
搖聲洋
渡邊亭

小豆岨

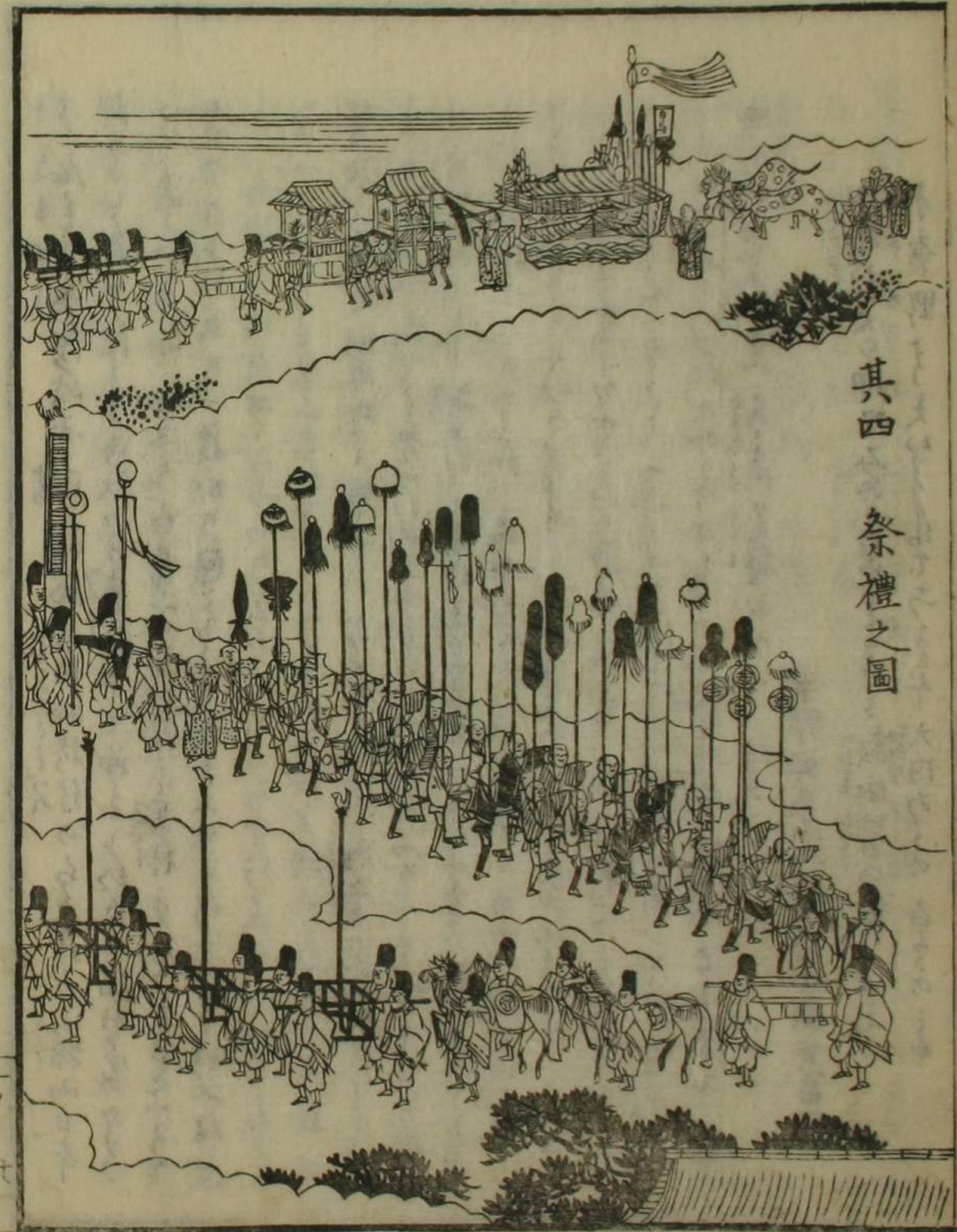


其二
鶴宮
鶴塚
榮國寺
湊川
水門松

石渡
寺
園
石渡

一八十七

馬場先



其四 祭禮之圖

三郎大天竺遊日記

龍王権現 境内つきのふありけしを
終日ふらふるをばねに

正行寺 日影ありて山と雲す
一向宗 嘉永無心寺門跡末寺

本寺 河津位や東 ころみ名号
南寺の古田左馬助云武建立かり天山年中生駒近相の南村尾村とゆふ

八幡宮 西山村あり社務初末寺 本北堂
おかれ八月十日 南村の

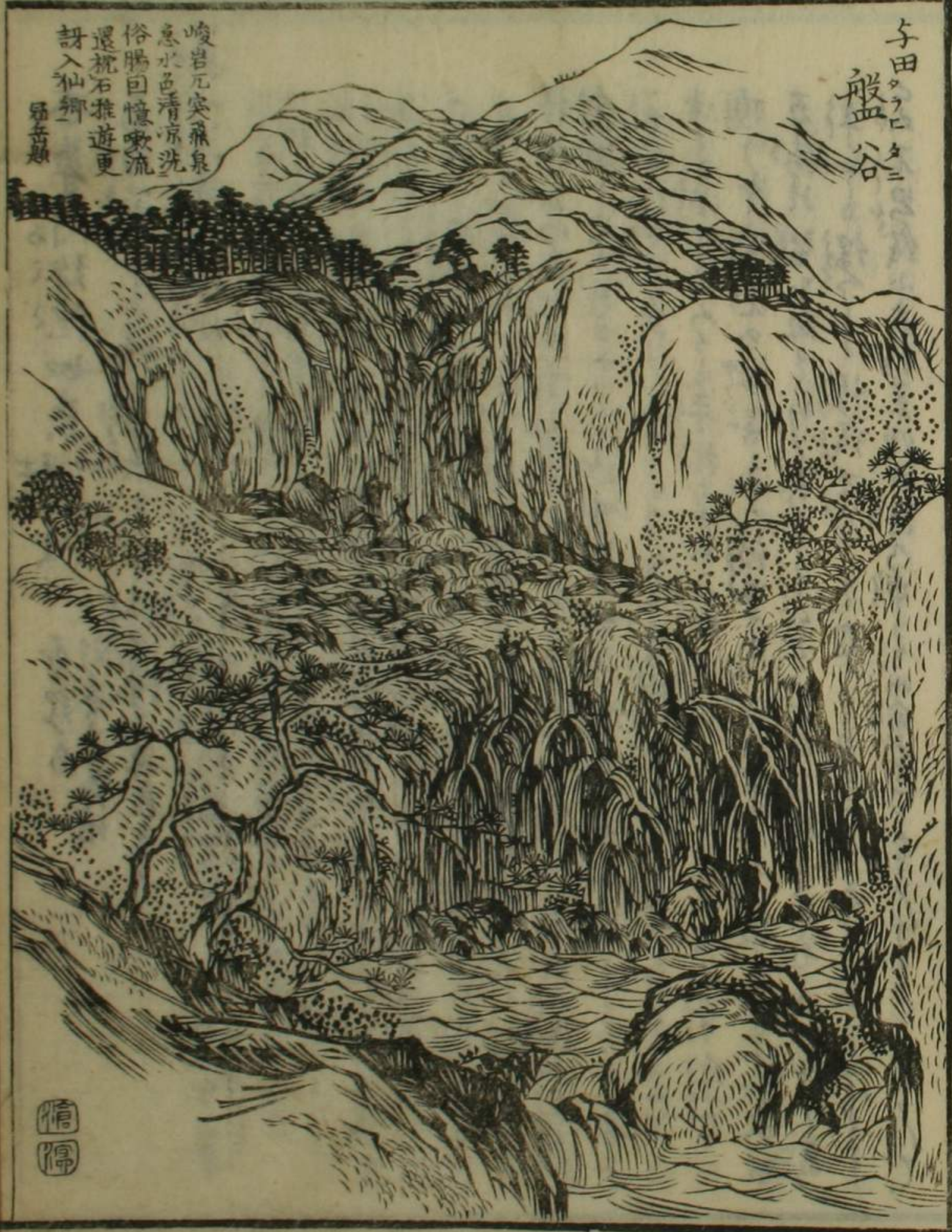
卯宮寺 日影ありて山と雲す
本寺 聖観音 終守住持才
南寺 岡を至末祥元和年中控大信初信翁再興日記

東山の猿が敷と然る泉谷村小ひの民家数ありて山頂をめぐりて

西山 鶴橋をよみて文川内村のひの民家三ふありて橋をめぐりて

王子坊 其田山村ふあり八音山と云ふ寺
まきま 唐寺の麓末寺

子田 盤谷



峻岩元突飛泉
急水色清涼洗
俗腸回憶漱流
還梳石推遊更
訝入仙郷
尋古題

信傳

本尊阿彌陀如來 尊号大 尊号大

南坊阿彌陀如來 尊号大 尊号大

大救世經六百卷 百六十卷者兼考...

社紀曰大振官...

德也の...

沙法へ赤松...

りつゝ村と...

坊沙の...

敷國と...

中小の...

傷入を...

新しも...

今固居者跡

日而... 井... 又... 固居者跡... 考... 今固居者跡...

大救世經を...

の... 後... 大救世經...

高國の... 赤松...

内傳... 大救世經...

社... 大救世經...

大救世經... 大救世經...

大救世經... 大救世經...

大救世經... 大救世經...

大救世經... 大救世經...



辨才天社の鬼つとあり唐室宮院 ○元徳大明神あり

山王権現社 ○二寶荒神社 秋野寺にあり

虎丸城跡 大馬元元家の跡なり

大水主神社 日永あり 社伝大水主社日二人 延喜式二由坐一

系神 倭迹日百襲姫命 大太橋況 社後中社 孝靈天皇 八百

神楽堂 本堂 神楽堂 石像二所 地蔵は社右の東地蔵

水子洗池 門間人 鳥居 二所あり

御縁堂 本社 四十六ヶ

社記曰 孝靈天皇元二皇女百襲姫命 赤坂七方にて傳國軍戸の

廬戸のふと物をもひ八半ありて後段五太内約と田字と少り

續日本後紀曰 承和三年 讚岐國水主神社 拜從五位下

三代実録曰 貞觀八年 四月壬午 授從五位上 同十八年 三月

四日 授正五位上

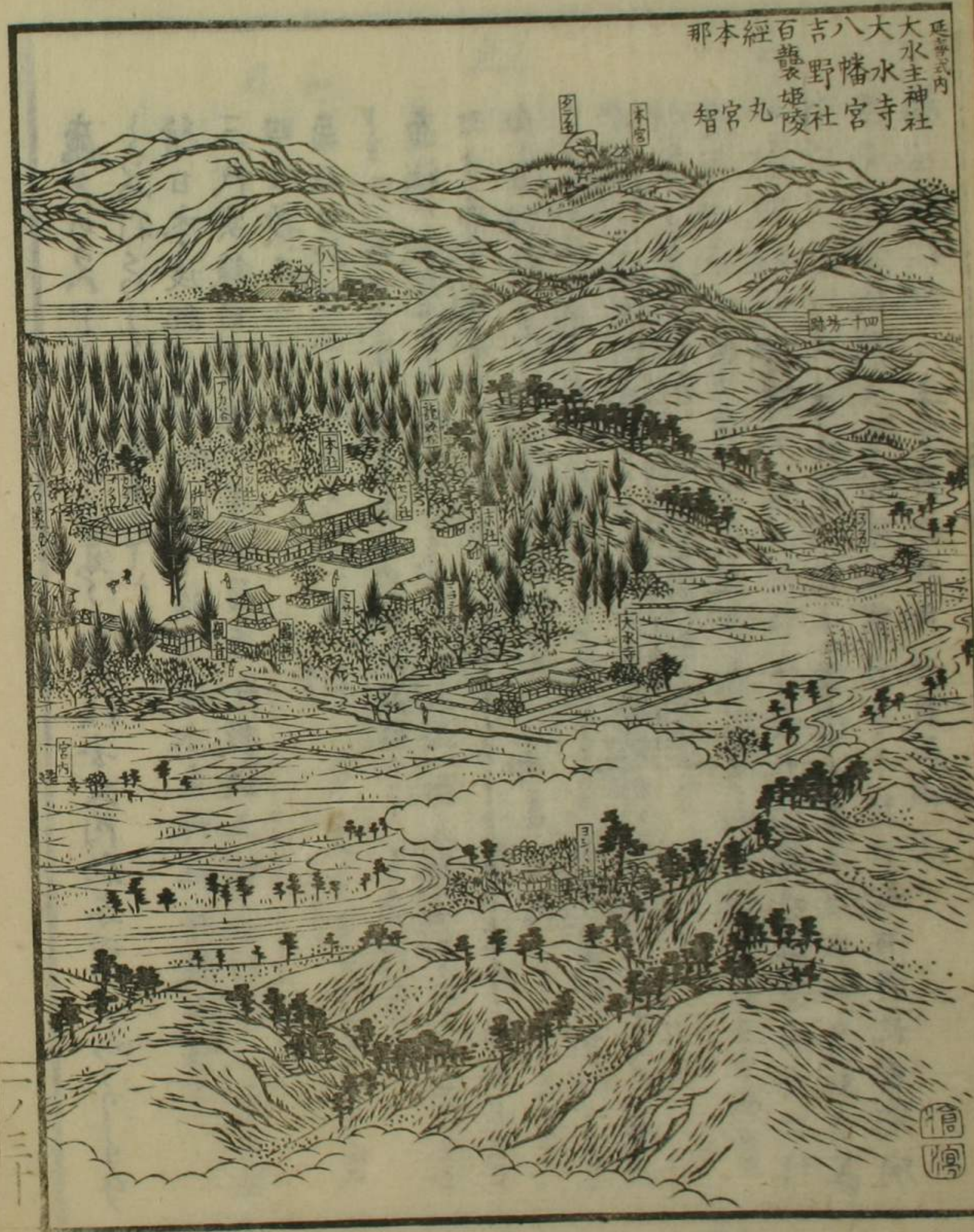
尚社の社位正五位上より正一位小叙し

尚社の社位正一位より正一位小叙し

建長四年 申狀の事より大水主社号初嘗太寛弘年中 改云々

社記曰 國司神拜之 貞正五位下 行左兵衛佐藤原經隆 目代

國宗下 總介天承元年 八月云 應保三年 正月廿四日 國司藤



温室所
弘海寺
圓通庵
新宮
愛宕社
圓光寺
虎丸城跡

誰設奇方醫百病
蒸窩染在碧山河
生平我抱煙霞癖
未此果結愈得麼
葛西清

穴居知雨知何日
石室藏書又幾年
誰料星霜猶未變
衆病並作一焚烟
谷本兼 故儒



大般若經內箱記曰嘉復三年八月廿六日貞和二年閏九月廿六日并再與應永元年八月四日再三
應永二十一年次甲午八月廿二日

服官棟札曰文畧
應永二十九年 壬寅 正月廿四日 柱立寅卯 當國 良顯法印
總官 源光政 大工 藤原光善 本願主 權少僧都 增叫敬誌

寶物大般若經 內々ねこ志復 年中七月あり

内陣大般若經修覆再治之支
當社祝師西壽房頼嚴文治二年頃令修覆終殿後建長五年之頃幸嚴大德修覆功闕今幸殿御前此事也雖然積星卷帙破損爰文安二年乙丑當社祝師行啓修覆終

額 桓武天皇初額正一位大水主大明神
同 大水主神禊所
牛玉板 増叫修心
五十三佛 友心修
繪 青具丸新判爰義經至奉納かん
心經 東山院 拍大 三對並
阿鏡 二字月年 内塔之揚く

獅子頭

裏書曰

於大水主社大明神御寶所
奉安置師子頭事

文安五年戊辰十月日

大願主 中村衛門文克
貞時宮笠大夫

次緋色願主 宮内重胤
貞時兵衛尉

細工三位公全秀

文明二年癸酉十月日



八咫鏡

持孫味多
厚三寸五分

短刀

国次作
松岡氏等附

塊

千枚重
依々木判友次持新持

桓武天皇
勅額



依々木判官の令とて
源方鏡 依々木判官
依々木判官の令とて
源方鏡 依々木判官

大鴈股全圖 結登守教經所持

評定司社領と皇附ありし時其納す
 元禄九年八月九日高村の久末等と
 二つ者をおもむりし今の様式に
 乃紐なり

二重塔 長五又八寸
 二重塔 二重塔今秀依

右彼塔婆建立意趣者金
 剛佛子金秀依病俄令身心惱
 乱則當社大明神此塔婆有造立者忽病惱可
 令平愈易夢想告也然則速病惱令消除而依而自
 作之致志奉納當宮者也

願主 真覺 生年三由
 絲色者于時作者金秀
 永享第五癸丑從七月廿八日始
 同七年乙卯十月十三日令成就

願主 真覺 生年三由
 絲色者于時作者金秀
 右筆 定俊



神宗のころから山々... 僧宗文

和名甚難 此の山は... 坂上道啓

神前寺依 秋山寺依 菩提寺依 玉花坊依 観色坊依

經の丸 日向山中ありし一石... 玉花坊依

水王十二景 神前老櫻 板橋... 沖子洗秋月

神前老櫻 板橋... 沖子洗秋月... 本宮暮宮

大水寺

大水寺 日新寺あり 水徳正徳寺あり
 本寺 子手記あり 唐堂花徳寺あり
 南寺 家系徳がくす初め社務とつひを寛文の以今此も亦改む
 寺元日大水至社記有之然仁安三年五月當坊舎焼亡之時
 大水寺 日新寺あり 水徳正徳寺あり
 本寺 子手記あり 唐堂花徳寺あり
 南寺 家系徳がくす初め社務とつひを寛文の以今此も亦改む
 寺元日大水至社記有之然仁安三年五月當坊舎焼亡之時

日記令燒失畢愚僧若年之時縁起見申候此分任胸臆書附
 置者也
 治承三年二月日
 上來書附依令虫凸写置者也
 文明二年寅三月七日
 神宮寺光觀
 社坊行秀粗記之

吉野明神

吉野明神 日新寺あり 社務大水寺
 南社ハ大水寺社務に依りて風氣を和らひしものなり
 又南社の社務に依りて風氣を和らひしものなり
 又南社の社務に依りて風氣を和らひしものなり

八幡宮

八幡宮 日新寺あり 社務大水寺
 本寺 子手記あり 唐堂花徳寺あり
 南社ハ大水寺社務に依りて風氣を和らひしものなり
 又南社の社務に依りて風氣を和らひしものなり

神掛川

神掛川 水室川よりあり 社務大水寺
 本寺 子手記あり 唐堂花徳寺あり
 南社ハ大水寺社務に依りて風氣を和らひしものなり
 又南社の社務に依りて風氣を和らひしものなり

温室

温室 日新寺あり 社務大水寺
 本寺 子手記あり 唐堂花徳寺あり
 南社ハ大水寺社務に依りて風氣を和らひしものなり
 又南社の社務に依りて風氣を和らひしものなり

絹島

彩石高嶽錦作畫
四邊不斷海風寒
危峰欲墜層波裡
疑是龍頭載未安
關長祐故佛

天機織得石為絲
幾幅紋綃照浪奇
縱使佳人微笑美
裁從千載巧難施
三木篤 僧員

きぬした

きぬした

は乃乃乃乃乃

瀬川 政忠



絹島

本尊 聖觀音

弘基大 聖觀音 形原明王 法守社 舟月天 弘基大所地 美安天 大明神

南寺の観音寺の創りより建立なる丹生止二寺の地なる天正年中
より大かくりを後再興なり

二殿 明神

日あり 四田村小あり東明山竹林院 本尊 東師如來 弘基 昭士 日光月光 弘基大所地

聖王寺

弘基大 聖王寺 弘基大所地 弘基大所地

石動明王 因沙門天 法守社

東光寺 弘基大 弘基大所地 弘基大所地

東光寺

弘基大 弘基大所地 弘基大所地

本尊 東師如來

弘基大 弘基大所地 弘基大所地

南寺の東師如來 弘基大 弘基大所地

鬼女明神

弘基大 弘基大所地 弘基大所地

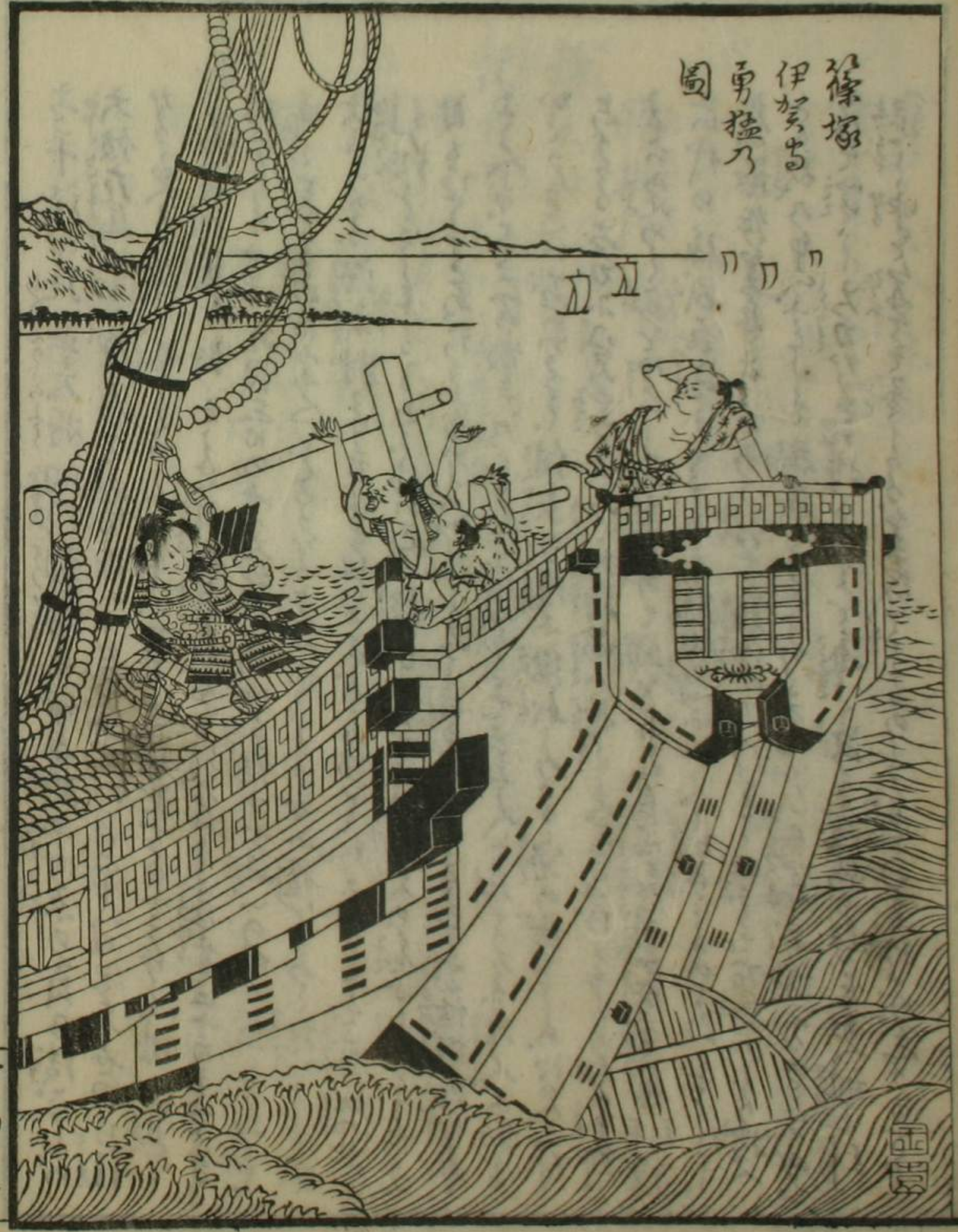
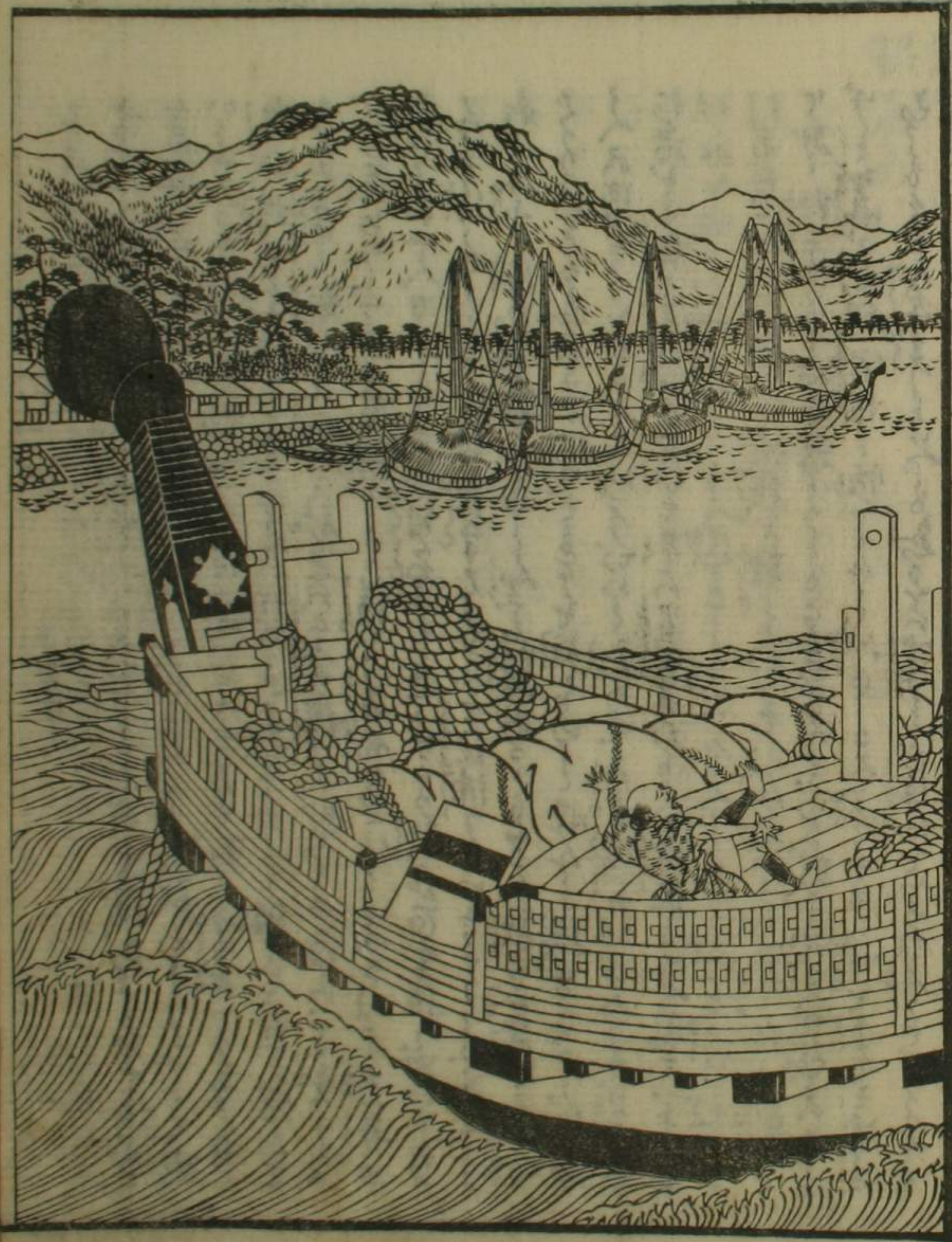
婆明神

弘基大 弘基大所地 弘基大所地

懸檜明神

弘基大 弘基大所地 弘基大所地

弘基大 弘基大所地 弘基大所地





源義隆主
平家の子を
捕らぬ

香不舎藤原信正



172
[Red stamp]

1172

讀波國名勝圖會卷之二終

无礙菴

田十六了

